

研究計画書

ゼミ名	柘植ゼミⅡ	チーム名	によきによき 147。
タイトル	関西の人々は本当に原発再稼働に賛成か？		
テーマ群	c) 公共経済 e) 産業・企業		
メンバー	後藤由香里 長家貴大 野田凌平 濱中雄基 藤田奈津美 松尾朋香 前田真吾 山崎健斗 山本真優 湯川京介		
研究計画内容	<p>東日本大震災から三年が経過したが、今なお、がれきの撤去作業や被災した人々の住環境の整備が続いている。特に福島県では、福島第一原発事故により大きな被害を受け、避難を余儀なくされた多くの人々が、未だにいつ自宅に帰ることができるのか分からないという状況にある。</p> <p>しかし一方で、関西で生活をする私たちは、原発に関する知識が少なく、原発への危機感や関心が低いのが現状である。私たちは、もし福井県にある原発で福島第一原発と同程度の事故が起こったら、どうなるのかに興味を持ち、調べてみた。すると、最悪の場合、大阪や京都などの主要都市に放射性物質が飛散し、多くの人々が避難を余儀なくされたり、近畿の水瓶である琵琶湖が汚染され、生活水が使用できなくなったりするなど、甚大な被害が予想されていることが分かった。</p> <p>こうしたことを関西の人たちはどの程度知っているのだろうか。これまで、新聞各社が原発再稼働への賛否を問う意識調査を行っているが、調査対象者である一般市民は、原発に関する十分な知識を持たない状態で回答している恐れがある。そのような状態で得られた原発再稼働に関する意見は信頼性が低いのではないだろうか。</p> <p>そこで私たちは独自のアンケートを実施し、関西の人たちの原発に対する知識の程度を調べるとともに、原発に関するより詳しい情報を与えられた場合に、原発再稼働に対する意識がどのように変化するかについて分析する。一般市民が十分な知識を持っていないこと、および、より詳しい情報を与えられると、原発再稼働への意見が変化することが確認できれば、これまでの意識調査の信頼性に疑問を投げかけることになると考えられる。また、原発再稼働に関する市民の意識を調査する際には、事前に十分な情報提供を行うことが重要であることも示せるかもしれない。</p>		